



二俣川小だより



3月号

横浜市立二俣川小学校

令和2年2月25日

発行責任者

校長 池田 千晶

笑い

校長 池田千晶

「なまけ忍者とおかしな話〜！」で始まる群読の発表が2月17日の朝会で行われました。2月21日に保土ヶ谷公会堂で、旭区の個別支援級が学習の成果を発表します。その事前の校内全校発表でした。

なまけ心をくすぐる忍者が人間をなまけさせようとささやいたり、「カモメ」がなぜカモメと呼ばれるようになったのか、いわれを演じたり、面白おかしく表現します。個別支援級の子どもたちの目標は、聞いている人たちが笑ってくれること。それは伝えたいことが伝わったという証です。緊張した面持ちで発表をはじめると、聞いていた子どもたちの中から、くすくすと笑い声が聞こえてきました。それを聞きながら、発表している子どもたちの表情はどんどん良くなっていきました。発表後、全校の子どもが退場するときに、一度聞いただけの発表内容を「〜〇〇〇〇〜かーもーめー」などとまねながら楽しそうに教室に戻っている子もいました。1回で心に響くように伝え、笑顔にする笑いを引き出す。練習を積み重ねてきたことに敬意を表し、しっかり聞く。発表する側も聞く側も双方が呼応しあっているのが素敵だと思いました。



以前、ちょっと面白い検定に参加しました。「ほめる達人をつくる『ほめ達検定』』というものです。「ほめる」という漢字には「誉める」「褒める」の二つがあって、ほめ達的にはそれぞれ次のような意味があるといっていました。

誉…「光」「言」の二つから成り立っている漢字。ほめることは、光を届ける言葉。光とは意識であり、光に対して闇がある。恐ろしい闇は「ありがとう」の反対で「当たり前」のことの素晴らしさに気付かず感謝できなくなること。だから「当たり前」のことにこそ、意識を向けて言葉を届ける。

褒…衣を大切に、人間力を高めることが大事。

検定の主催者が以前店舗等の改善を図る仕事をしていた時に、100個の改善点をいくら指摘しても業績が改善しなかったのに、その中から具体的な2個だけ伝えて、他は誉めるということが続けたら業績が上がったというのです。

態度や言葉一つで、相手との関係性が変化していく。先日の朝会はそのような一場面でした。残り一か月、進級に向けた学習と心のまとめと、双方に力を入れて、職員一同取り組んでまいります。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

学校の建替えに向けて ～コンセプトが決まりました～：

二俣川小学校の建替えに関して3回にわたる話し合いが行われ、多くのご意見を頂きました。この中で建替えのコンセプトも決まりました。

○子どもたちも地域も、楽しく充実した活動ができ、環境にも配慮した学校

○子どもたちの未来を、まちとともにほぐめる学校

来年度は、このコンセプトをもとに基本設計を進めていく予定です。